

第4回 常願寺川・神通川・庄川及び小矢部川 流域治水プロジェクト協議会 議 事 概 要

開催日時：令和5年3月14日（火）13：30～15：00

場 所：富山河川国道事務所 3階 大会議室 および テレビ会議

議事次第：1. 開会挨拶

2. 規約の改正について【資料1】

3. 流域治水プロジェクトについて【資料2】

- ・流域治水プロジェクトの更新
- ・流域治水プロジェクトに基づく対策の実施状況
- ・流域治水プロジェクトの進捗・深化に向けて
- ・多様な主体と協働・連携して実施する取組

4. 報告事項【資料3】

3. 閉会

議事概要：

＜規約の改正について＞

- 規約改正について了承された。

＜流域治水プロジェクトについて＞

- 【流域治水プロジェクトの更新】について了承された。
- 【流域治水プロジェクトに基づく対策の実施状況】について、情報共有が図られた。
- 【流域治水プロジェクトに基づく対策の実施状況】に対するご意見

[オブザーバーA]

マイ・タイムラインの普及の取組は、河川事務所が実施しているのか。

[事務局]

マイ・タイムラインの作成体験等の取組を紹介するパンフレットを事務所等に置いており、要望があれば対応している。今年度においては要望が無く、実施していない。

[オブザーバーA]

自機関では、県内の学校で国土交通省の資料を用いたマイ・タイムラインの作成講習会を実施した実績があり、もし今後実際にそのような取組を行う機会があれば、自機関で講師を派遣することができるので、声をかけてほしい。

[事務局]：ぜひお力添えを頂きたい。

- 【流域治水プロジェクトの進捗・深化に向けて】について了承された。
- 【多様な主体と協働・連携して実施する取組】について了承された。

➤ 【多様な主体と協働・連携して実施する取組】に対するご意見

[構成員A]

「河川改修事業と地域活性化やにぎわいの創出の取組、企業誘致に資する計画などとの連携」とあるが、「にぎわいの創出」や「企業誘致」がなぜ治水と結びつくのか。この内容の狙いや、本取組が治水とどのように関わってプラスになっていくのかというイメージがあれば教えてもらいたい。

[事務局]

河川改修事業により地域の安全度が向上することで、企業誘致に繋がることもあるのではないかと考えている。また、河川事業で発生した河道掘削土砂を土地の造成に活用し、その場所に企業が工場等を立地するといった連携ができればよいと考えている。

[構成員A]

了解した。治水だけの狭い範囲に限定して議論せずに、幅広くいろいろなことを考えていくことができればよい。

＜報告事項について＞

【水害リスクマップについてのご意見】

[構成員B]

降雨規模の「1/10」や「1/30」等は「10年に一度」「30年に一度」という意味か。

[事務局]

「1/10」は、過去の降雨の記録を整理した中では10年間に1回発生していた規模の洪水ということで、1年間に発生する確率が10分の1程度の規模の雨という意味である。

[構成員B]

富山市のウェブサイトで見た洪水ハザードマップでは、富山市内市街地で最大5mの浸水となっており、「1000年に一度」の降雨規模とされていた。今回の水害リスクマップの作成に際しては「1/1000」という確率は対象としていないのか。

[事務局]

いわゆる「1/1000」は、想定最大規模の降雨確率を表しており、1/1000より低頻度な場合でも1/1000と割り切って使っている部分がある。水害リスクマップ図面の凡例において、薄い黄色を意味する「想定最大規模」が「1/1000」と同義である。

[オブザーバーB]

「1/10」や「1/30」という表現については、もう少し一般の人が分かるような説明が必要ではないか。

[事務局]

浸水想定図（1/10規模降雨）の下にある説明文に「年超過確率 1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1/10（10％）の降雨）」と記載している。難しく感じられるかもしれないが、「1回洪水が発生すると向こう10年間は発生しない」と誤解されないよう、正確に伝えたいという思いがあり、このように記載させていただいている。

＜その他＞

- 参考資料１～３について情報共有が行われた。

－ 以上 －